

授業科目名・形態	臨床薬理学	講義	必修・選択の別	必修
担当者氏名	早狩 誠	開講期	2年前期	単位数 2

【授業の主題】

臨床薬理学は、薬理学で学んだ薬物の作用機序や有害事象に関する基本的な知識が、臨床の場面でのどのように応用されているかを学ぶ場である。

【到達目標】

薬物が臨床試験を経て上市される過程を学ぶ。上市された薬物の有効性は、併用薬剤や年齢等により効果が変動することを学ぶ。この違いの例として薬物代謝酵素の遺伝子多型によることを学ぶ。各講義で学ぶ薬物療法の注意点等の知識を有していることは、看護師業務において薬物の有効性評価や有害事象の発現の早期発見に繋がる。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 臨床薬理学概論 1 (臨床薬理学とは、薬物の作用機構等について)
- 第 2 回 臨床薬理学概論 2 (麻薬等の取り扱い、違法薬物：薬物依存について)
- 第 3 回 治験とは (治療に使用される医薬品がどのような過程を経て販売されるか)
- 第 4 回 薬理遺伝学 1 (薬物代謝酵素：遺伝子多形とは、遺伝子多形が影響を及ぼす薬剤について)
- 第 5 回 薬理遺伝学 2 (遺伝子多型が影響を及ぼす薬剤について)
- 第 6 回 薬理遺伝学 3 (遺伝子多型が影響を及ぼす薬剤について)
- 第 7 回 高齢者の薬物療法 (高齢者の薬物療法への留意点)
- 第 8 回 配合剤の意義 (高齢者の服薬遵守の改善対策としての配合剤の意義について)
- 第 9 回 妊婦授乳婦への薬理学 1 (妊婦授乳婦人への薬物療法の基本について)
- 第 10 回 妊婦授乳婦への薬理学 2 (妊婦授乳婦人への薬物療法の留意事項について)
- 第 11 回 化学療法剤 1 (抗生物質) (抗生物質の作用機序について)
- 第 12 回 化学療法剤 2 (抗生物質および抗がん剤) (各種抗生物質の副作用および抗がん剤の作用機序)
- 第 13 回 化学療法剤 3 (抗がん剤) (新規抗がん剤：分指標的薬の作用機序等について)
- 第 14 回 薬物使用における医療安全 (薬剤が患者に投与されるまでの留意事項)
- 第 15 回 薬害 (過去の薬害から現在そして将来に向けた留意事項について)

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行う。

【授業準備】

各授業に関連する薬剤についての基礎的知識を薬理学の教科書で予習しておくこと。

【主な関連する科目】

薬理学、生物化学、生理学

【教科書等】

特になし

【参考文献】

特になし

【成績評価方法】

授業中に小試験を10回以上行う。成績評価は小試験 (90%)、そして授業態度等 (10%) で総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

薬物療法で生じる多くの有害事象を発見できる能力を身につけるように、常に現場にいることを想定して講義を受けることが望ましい。